

さまざまな海の仕事を経験した「海のプロ」が瀬戸内海の安全・安心に貢献する一般社団法人海上安全ネット(広島市南区)。設立3年目となり、同ネットの近藤英昭理事長と、顧問で漫画「海猿」原作者の小森陽一さんに、活動内容や今後の目標を聞きました。

海上安全ネットトップ対談



海上安全ネット理事長

近藤 英昭さん

こんどう・ひであき 1943年、東広島市生まれ。海上保安庁福岡海上保安部次長、同宇和島部長などを歴任。廿日市市在住。

―設立目的と業務は。

近藤 海上業務の一端を退き、培われた技術を持つ人を生かそうと2009年10月に設立しました。測量業、紹介業、派遣業、警備業の登録認定許可を受けています。海難事故防止の研修会の講師や港湾工事の警戒要員、一時的な船員などに登録者を派遣。漁港に津波が押し寄せたときの避難経路の確認といった海と陸にまたがる仕事も手掛けています。

―登録者の職種や年齢は幅広いですね。

近藤 近藤理事長から団体設立の趣旨を聞き、すばらしい活動だと思い、賛同しました。密漁など犯罪を取り締まっていた海上保安官、警察のOBだけではなく、潮の流れの複雑さを知る漁師の人らも参加され、職業の垣根が取り払われて連携しています。



登録者を対象にした仕事内容を伝える講習会

―今後の抱負を。

近藤 組織が安定するにはまだ2、3年かかるかもしれませんが、団塊世代の人が定年を迎え、どんどん入っています。興味のある方はホームページを見て登録していただきたい。登録者には培った技術を世の中に生かせる喜びや、海の安全確保を通して社会貢献できる喜びを知って

社会貢献が大きな励み

近藤さん

経験と知恵を「海猿」に

小森さん

近藤 現在、国交省や自治体、国家公務員、民間、具体的には海上保安官、警察、自衛官、漁師、海事関係会社とあらゆる海上業務に関わった123人の経験者が登録し、平均年齢は66歳。最高齢の方は81歳。登録せずに手伝ってくれる人もいます。海の

る。海上安全ネットがあったから防げた海難事故もあったのではないかと、思います。

―お二人は「海猿」を通して知り合ったとか。

近藤 14、15年前ですね。私が福岡海上保安部時代に小森さんから海上保安官の仕事など詳しく取材されました。それが「海猿」となり、おかげで海上保安官にスポットが当たったり、志望者増にもつながりました。小森さんは海上保安庁の恩人です。

小森 「海猿」は漫画原作のデビュー作なんです。「海上保安庁ってなに」というのがきっかけで、約1年間の取材となりました。何時間も近藤理事長と話をしましたが「これは書くな」「ここは駄目だ」と言われたことはなかった。密航船も取材できました。理事長との出会いがなか

もらいたいです。企業に対しても、事故防止など危機管理として海上安全ネットを積極的に利用してもらえよう働きかけたいですね。

小森 海上安全ネットに関わるうち、海上保安官OBの話も書きたくなってきました。経験と知恵というものはとても大切です。海の安全をさまざまな人が協力して守っていく活動が、瀬戸内海から広がっていけばと思います。



小森 「海猿」は漫画原作のデビュー作なんです。「海上保安庁ってなに」というのが



た。密航船も取材できました。理事長との出会いがなか



作家、海上安全ネット顧問

小森 陽一さん

こもり・よういち 1967年、佐賀県伊万里市生まれ。大阪芸術大卒。主な作品に「海猿」「DOG×POLICE」など。福岡市在住。

MSS
Maritime Safety
and Security net

一般社団法人

海上安全ネット

〒732-0824 広島市南区的場町1丁目3番6号 広島的地場ビル

TEL 082-236-9400 FAX 082-236-9900

ホームページ <http://kaijyoanzen.jp/>

メールアドレス info@kaijyoanzen.jp